

HELLO PSJ

「ベルギーでの研究生生活 ～学生の街。ルーヴァンから～」

ベルギー王国と聞くと皆さんは何を想像されるでしょうか？ まだ記憶にも新しい2002年のワールドカップで日本と対戦した相手国でもあり色々なベルギー情報が紹介されましたが、チョコレート、ビール、ワッフルそしてレース製品とダイヤモンドが有名ですのでまずはそれらが頭に浮かんでくるかもしれません。またムール貝や白アスパラガスを初めとして、美食の国としても有名です。他の特筆すべき点としては、ベルギー王国の複雑な言語体制があげられます。ベルギー王国の北側に位置するフランダース地方（有名な「フランダースの犬」はフランダース地方にあるアントワープが舞台になっています）ではオランダ語の方言の一つであるフラマン語が、南側に位置するワロン地方ではフランス語がそれぞれ母国語として使用されております。国土的には決して大きくはない国に二つの言語が存在している、というのがベルギー王国の特色の一つであるといえます。私が今現在働いているルーヴァンカトリック大学（Katholieke Universiteit Leuven, K.U.Leuven）はベルギー王国の首都、ブリュッセルから東へ急行電車で30分ほどの場所に位置する人口10万人ほどの街、ルーヴァンにあります。ルーヴァンはオランダ語圏に属しておりますが、フランス語圏にもルーヴァン大学があります。このルーヴァン大学（ルーヴァンラヌーブ、Louvain la neuveと呼ばれています）も以前は同じ大学であったものが、30年程前に言語の問題から二つに分かれたそうです。ルーヴァンカトリック大学は欧州でも有数の歴史を誇る大学だけあって街の至るところに大学の施設があり、住民の半分以上が

ルーヴァンカトリック大学 澤村 裕正

学生や教員または大学関係者という街で、留学生の姿も多く見られます。街の端から端までも約2kmという小さい街ですが、街の中心にはヨーロッパで最も美しいと言われている市庁舎があり（写真）その前の広場には数多くのカフェが建ち並び、夏ともなると太陽を求めてテラス席が所狭しと並べられ、名物のビールを飲みながら、多くの人が談笑にふけています。中心から10分ほど歩くと世界遺産にも指定されているベギン会修道院があります。中世の趣を色濃く残す場所ではありますが、今では主にルーヴァンカトリック大学の宿舎として用いられています。

街を囲むようにして走っている、リングと呼ばれる道路から外れてすぐの小高い丘に立つ大学病院と同じ敷地にある医学部に私の働いている施設があります。周辺には緑が沢山あり、ウサギが走り回るような非常にのんびりとした環境です。同じ建物にはt-PAを発見したコーレン先生をはじめ、各分野で著名な先生方が多数いらっしゃいますが、私はオーバン教授を主任教授とする大脳生理学教室でポスドクとして働いております。当研究室ではヒトを被験者としたfMRI、サルを実験動物として用いたfMRIと細胞活動記録を3つの柱として精力的に実験を行っております。MRIの機械自体は病院付属の機械を使わせてもらっているので時間的な制約が大分ありますが、それでもほぼ毎日のように撮影が可能で、特にサルを用いたfMRIでは覚醒下における課題遂行中の脳活動を、複数の領域にまたがって同時に画像として捉えることができ、その結果をヒトのfMRIで得られた結果と比較する、あるいは細胞活動記録



写真

やその他の手法によって得られた実験結果と比較することが可能です。私は今現在fMRIグループに属しながら二次元の物体画像を視覚刺激として用い、単一の視覚刺激を繰り返して与えた場合と異なる視覚刺激を与えた場合の脳の活動変化をヒトとサルとの両方で測定し、得られた結果の比較検討を行っております。日本ではfMRIの経験が一切なかったので、大袈裟に言えば毎日が新しい発見でしたが、当研究室には8人もの技官さん達があり、技術的な面では全面的にバックアップしてくれますので大変心強いです。サルのfMRI実験では、ヒト用に開発されたアプリケーションを

サル用に転用する、シグナル／ノイズ比を減らすために鉄剤の一種を投与する、など全てが試行錯誤の連続ではありますが、大分手法が固まりつつあります。このように手法を確立しているさなかの研究室に身を置いてみると本当に色々なことが勉強になります。

もし海外への留学を考えていらっしゃる方がおりましたら、是非一度その道へ進んでみることをお勧めします。文化の違い、習慣の違いなど戸惑うことばかりですが、想像以上に色々なことを学べると思います。